

畜舎から出る排水を液肥として利用する技術

畜舎から出る排水は、家畜の排せつ物を含み悪臭があるため、普通は高度な処理をしてから川に流しますが、これを簡易に処理し液肥として利用する技術を開発しました。

畜舎から出る排水中に少量の空気を2週間送り込むと、微生物の作用により汚物が分解され、においのない透明褐色の液体ができます。この液体には肥料成分と微生物を含んでいるため、液肥として利用することができます。ミニトマト、花苗、野菜苗に施用すると生育がよくなりました。芝生に灌水として利用すると雨天時の水はけが良くなり、生育も旺盛になりました。

1 畜舎排水から液肥ができます。

畜舎排水に少量の空気を2週間送り込み、送風を止め1日置いた上澄みを液肥として使用します。



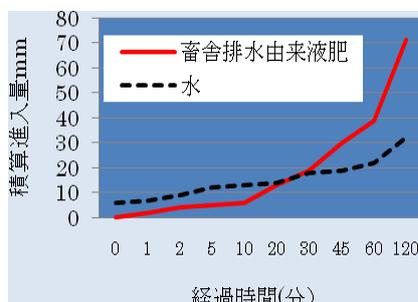
畜舎排水から作った液肥は窒素を50~250mg/L含みます。肥料成分を調べて使います。



2 花苗(ビオラ苗)に月4回施用すると市販液肥よりも生育が優れていました。



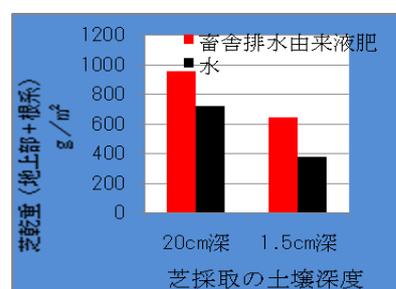
3 芝生に利用すると水はけがよくなり、芝の生育が旺盛になりました。



土の水はけがよくなりました



芝生に利用すると発育が良くなりました



畜産研究所養豚・養鶏担当 TEL 048-536-0441
 農産物安全・土壌担当 TEL 048-521-9461
 園芸研究所 野菜・花担当 TEL 0480-21-1115